

## 「生態工学」レポート課題

2016年12月21日

下に列挙した土木・建築と自然環境に関係する書籍あるいはCD-ROMから、少なくとも1冊を図書館から借り出して（あるいは書店で購入して）初めから終わりまで読む。

レポートはパソコンのワープロソフトを使って印刷し、文字の大きさは10ポイント程度、フォントは明朝体（この文書の書体）とし、A4版1ページ以上書く。ただし、1ページの紙面を十分な字数で埋めてあり、指示に従ってきちんと書かれていれば、1ページで十分に満点の対象であり、無理に2ページ以上にする必要はない。2ページになってしまったときは、紙を節約し、扱いやすくするために、両面印刷にする。

レポートは読みやすくするため、必ず数行～10行程度の段落に分けて書く。段落の最初の行の左端は、この文章と同様に、1文字分右へ下げる。

構成は次のとおりとする。内容の1. 要約、2. 意見・感想、3. 自分の考え、の3部分は、はっきりと区別できるように別の段落に分け、段落の最初に番号と章のタイトルを付ける。表紙を別につける必要はない。

タイトル：読んだ書籍の題名、著者、出版社

学籍番号と氏名：改行してタイトルの右下に書く。

レポートの内容：

1. 書籍の内容の要約（レポート全体の1/3を越えないこと）
2. 書籍の内容に対する自分の意見・感想（関連する他の書籍も読んで比較することが望ましい）
3. 自然環境の保全における技術者の社会的な役割と責任について、自分の考え

その書籍を読んで、あるいは図書館の他の書籍を読んで、技術者は日本の社会、あるいは国際社会においてどのような役割を果たすべきか、またどのような責任を負っていてどのような態度で仕事に臨むべきか、自然環境の保全と関連づけて自分の考えを書く。生態学、生態工学など、これまでの授業で学んだことを含めて書いても構わない。

「2. 意見・感想、3. 自分の考え」が所定の分量（全体の2/3以上）に足りない、書籍の一部の内容に対してしか意見・感想を書いていない、など書籍を始めから終わりまで読んだのかどうか疑わしいレポートは大幅減点とするので、必ず全部読んで、書籍の全体に対してレポートを書く。

文体は、常体（…だ。…である。）とする。敬体（…です。…ます。）を使ってはいけない。常体と敬体を混ぜて書いたレポートは受け付けない。

レポートは、8点満点で評価する。未提出者には単位を出さない。

提出期限：1月12日（木）生態工学の授業時

これらの書籍はすべて大学の附属図書館にある。左端の番号・記号は図書館の請求記号（本の背についているラベルの番号）である。大部分が図書館の2階にあるが、一部は1階、3階、あるいは書庫などにある。どこにあるか、あるいは貸出中か、図書館ホームページで調べることができる。ただし、多くの本が貸し出されてしまった後は、この方法では調べるのに時間がかかるので、この文書を紙に印刷して手に持ち、図書館の書棚を請求記号順に歩いて探すことも勧める。

ここに列挙されていない生態工学分野の書籍をレポートの対象にすることもできるが、必ず内田に事前に申し出て許可を得ること。1年前期「生物・生態学」（生物学分野・生態学分野）でも同様のレポートを課したので、生態工学に関係する書籍と見えてもそちらの対象書籍となっていることがある。生物・生態学の対象書籍となっているときは、重複を避けるため、許可しない。生物・生態学の対象書籍は、次のウェブページの最下部のリンクをクリックして表示される二つの文書（生物学分野・生態学分野）に掲載されている。

・生物・生態学 <http://aitech.ac.jp/~s-uchida/syllabus-biology&ecology.htm>

C||468 「図解 生態工学」日本造園学会生態工学研究委員会編、ソフトサイエンス社、1999（CD-ROM）。

081||C 「森林理想郷を求めて：美しく小さなまちへ」平野秀樹著、中公新書1284

081||C 「水道の思想：都市と水の文化誌」鯖田豊之著、中公新書1297

081||C 「日本川紀行：流域の人と自然」向一陽著、中公新書1698

081||C 「自然再生：持続可能な生態系のために」鷺谷いづみ著、中公新書1752

081||C 「石と人間の歴史：地の恵みと文化」蟹澤聰史著、中公新書2081, 2010.

081||C 「グリーン・エコノミー：脱原発と温暖化対策の経済学」吉田文和著、中公新書2115, 2011.

081||C 「気候変動とエネルギー問題：CO<sub>2</sub>温暖化論争を超えて」深井有著、中公新書2120, 2011.

081||C 「自然保護のガーデニング」青木宏一郎著、中公新書ラクレL54

081|C「美しい都市・醜い都市：現代景観論」五十嵐太郎著、中公新書ラクレ L228

081|E「緑の冒険：沙漠にマングローブを育てる」向後元彦著、岩波新書 新赤版 28

081|E「アメリカの環境保護運動」岡島成行著、岩波新書 新赤版 142

081|E「水の世界戦略」中西準子著、岩波新書 新赤版 324

081|E「環境再生と日本経済：市民・企業・自治体の挑戦」三橋規宏著、岩波新書 新赤版 924

081|E「環境アセスメントとは何か：対応から戦略へ」原科幸彦著、岩波新書 新赤版 1301, 2011.

081|E「東海道 水の旅」中西準子著、岩波ジュニア新書 186

081|E「地球持続学のすすめ」武内和彦著、岩波ジュニア新書 568, 2007.

081|E「バイオマスは地球環境を救えるか」木谷収著、岩波ジュニア新書 578, 2007.

081|E「生活環境主義でいこう！：琵琶湖に恋した知事」嘉田由紀子語り；古谷桂信構成、岩波ジュニア新書 594, 2008.

081|E「地球温暖化の最前線」小西雅子著、岩波ジュニア新書 640, 2009.

081|E「地域の力で自然エネルギー！」鳥越皓之ほか著、岩波ブックレット 786, 2010.

081|N「生態系を蘇らせる」鷺谷いづみ著、NHK ブックス 916, 2001.

318.6|O「限界集落と地域再生」大野晃著、信濃毎日新聞社

374.7|G「学校ビオトープの展開：その理念と方法的考察」杉山恵一・赤尾整志監修、信山社サイテック、1999.

374.7|N「学校ビオトープ：考え方 つくり方 使い方」日本生態系協会編著、講談社、2000.

374.7|N「学校・園庭ビオトープ：考え方 つくり方 使い方：新装改題版」日本生態系協会編著、講談社、2008.

374.7|O「学校ビオトープ Q & A」鳩貝太郎監修；大熊光治・加藤尚裕・村川栄編著、東洋館出版社、2001.

374.7|Y「ビオトープ教育入門：子どもが変わる 学校が変わる 地域が変わる」山田辰美編著、農山漁村文化協会、1999.

375|K「ちょっと待ってケナフ！これでいいのビオトープ？」上赤博文著、地人書館、2001.

376.1|K「自然と遊ぼう 園庭大改造」小泉昭男著、ひとなる書房、2011.

450|S「地球・環境・資源：地球と人類の共生をめざして」坂幸恭ほか著、共立出版、2008.

451|G「不都合な真実：切迫する地球温暖化、そして私たちにできること」アル・ゴア著、ランダムハウス講談社

452|K「世界湖沼ビジョン：湖と人、共存の道をひらく」国際湖沼環境委員会編、新樹社

452.9|O「水と人間の共生：その思想と生活空間」大崎正治著、農山漁村文化協会

454|U「海辺の環境学：大都市臨海部の自然再生」小野佐和子・宇野求・古谷勝則編、東京大学出版会

480|A「日本の動物法」青木人志著、東京大学出版会、2009.

480.9|M「ワイルドライフ・マネジメント入門：野生動物とどう向きあうか」三浦慎悟著、岩波書店、2008.

486.6|M「ホテルと暮らす：ゲンジボタルその不思議な一生」三石暉弥編著、信濃毎日新聞社、2010.

487.52|T「田園の魚をとりもどせ！」高橋清孝編著、恒星社厚生閣、2009.

487.67|N「絶体絶命の淡水魚イタセンパラ：希少種と川の再生に向けて」渡辺勝敏、前畑政善編、東海大学出版会、2011.

488|F「庭に鳥を呼ぶ本」藤本和典著、文一総合出版、1995.

488.04|F「新 庭に鳥を呼ぶ本」藤本和典著、文一総合出版、2009.

488.58|K「蘇るコウノトリ：野生復帰から地域再生へ」菊地直樹著、東京大学出版会、2006.

489.83|T「日本のシシ垣：イノシシ・シカの被害から田畑を守ってきた文化遺産」高橋春成編、古今書院、2010.

501.6|S「バイオマスが拓く 21 世紀エネルギー：地球温暖化の元凶 CO<sub>2</sub> 排出はゼロにできる」坂井正康著、森北出版

510|H「増補 応用生態工学序説：生態学と土木工学の融合を目指して」廣瀬利雄監修、信山社サイテック、1999.

510|O「自然再生への挑戦：応用生態工学の視点から」応用生態工学序説編集委員会編、学報社・大学図書、2007.

510.8|S「環境アセスメント」千秋信一編著、技報堂出版、1988.

513.3|S「生態工学の基礎：生きた建築材料を使う土木工事」H. M. シヒテル著 伊藤直美・P. マテー訳、築地書館、2004.

513.3|Y「生態学的な斜面・のり面工法：これからの緑化技術」吉川勝秀編著、山海堂

514|T「道路と環境」角川浩二、Christopher Hoban 編、道路緑化保全協会、1998.

514.1|K「エコロード：生き物にやさしい道づくり」亀山章編、ソフトサイエンス社

514.1|K「エコロードブック」海外エコロード事例調査団編、道路緑化保全協会

514.1|O「鬼首道路 エコロードへの挑戦」鬼首エコロード研究会編著、大成出版社

514.6|K「エコロードガイド」効率的な自然環境保全手法確立に関する検討委員会編集、道路緑化保全協会

517|D「川のなんでも小事典：川をめぐる自然・生活・技術」土木学会関西支部編、講談社ブルーバックス

517|F「近自然の歩み：共生型社会の思想と技術」福留脩文著、信山社サイテック

517|G「近自然河川工法：生命系の土木建設技術を求めて」クリスチャン・ゲルディ、福留脩文著、信山社

517|H「私たちの「いい川・いい川づくり」最前線」「いい川・いい川づくり」研究会編著、学芸出版社

517|K「河川生態環境工学：魚類生態と河川計画」玉井信行・水野信彦・中村俊六編、東京大学出版会

517|K「河川生態環境評価法：潜在自然概念を軸として」玉井信行、奥田重俊、中村俊六編、東京大学出版会

517|K「水辺のリハビリテーション：現代水辺デザイン論」亀山章・樋渡達也編、ソフトサイエンス社

517|K「自然再生の河川工学」Peter C. Klingeman 著、山海堂

517|P「生命の川」S. ポステル、B. リクター共著；山岸哲、辻本哲郎共訳、新樹社

517|R「河川と自然環境」リバーフロント整備センター編、理工図書

- 517|R 「流域圏プランニングの時代：自然共生型流域圏・都市の再生」石川幹子・岸由二・吉川勝秀編、技報堂出版
- 517|R 「ともだちになろう ふるさとの川」リバーフロント整備センター編集、信山社サイテック
- 517|S 「河川環境の保全と復元：多自然型川づくりの実際」島谷幸宏著、鹿島出版会
- 517|S 「水辺域管理：その理論・技術と実践」砂防学会編、古今書院
- 517|S 「農村ビオトープ：農業生産と自然との共存」自然環境復元協会編、信山社サイテック、2000.
- 517|S 「自然と共生した流域圏・都市の再生」同ワークショップ実行委員会編著、山海堂
- 517|T 「河川計画論：潜在自然概念の展開」玉井信行編、東京大学出版会
- 517|T 「川に生きる：水危機の処方箋」高橋裕著、山海堂
- 517|U 「河川事業は海をどう変えたか」宇野木早苗著、生物研究社
- 517|Y 「河川流域環境学：21世紀の河川工学」吉川勝秀著、技報堂出版
- 517|Y 「人・川・大地と環境：自然共生型流域圏・都市に向けて」吉川勝秀著、技報堂出版
- 517|Y 「近自然工学：新しい川・道・まちづくり」山脇正俊著、信山社サイテック
- 517|Y 「野生生物のための河川環境管理」王立鳥類保護協会・英国河川公社・野生生物トラス編、環境コミュニケーションズ
- 517.2|H 「川とヨーロッパ：河川再自然化という思想」保屋野初子著、築地書館
- 517.2|K 「川辺川ダムはいらん！：住民が考えた球磨川流域の総合治水対策」 「同左 PART2: ダムがもたらす環境破壊」（2分冊で1冊とみなす）川辺川ダム問題ブックレット編集委員会編、花伝社、2006.
- 517.2|M 「都市の中に生きた水辺を」身近な水環境研究会編、信山社
- 517.2|M 「エバングレーズよ 永遠に」南フロリダ水管理局編、信山社サイテック
- 517.2|O 「水のこころ誰に語らん」小倉紀雄・河川生態学術研究会多摩川研究グループ著、リバーフロント整備センター
- 517.2|S 「大地の川：甦れ、日本のふるさとの川」関正和著、草思社
- 517.2|S 「生命体「黄河」の再生」李国英ほか編著、京都大学学術出版会、2011.
- 517.2|T 「天竜川サイエンス」天竜川サイエンス編集委員会編、信濃毎日新聞社、2006.
- 517.5|B 「河川・法面工法にみる工学的生物学の実践」W・ベージェマン、H・M・シーヒテル著、彰国社
- 517.5|B 「自然に適合した工法：河川工事ハンドブック」パーデンヴェルテンベルク州環境省編、集文社
- 517.5|H 「川づくりをまちづくりに」樋口明彦・川からのまちづくり研究会著、学芸出版社
- 517.5|N 「21世紀の河川学：安全で自然豊かな河川を目指して」芦田和男、江頭進治、中川一著、京都大学学術出版会
- 517.5|O 「溪流生態砂防学」太田猛彦、高橋剛一郎編、東京大学出版会
- 517.5|O 「技術にも自治がある：治水技術の伝統と近代」大熊孝著、人間選書 253、農山漁村文化協会
- 517.5|S 「川づくりとすみ場の保全」桜井善雄著、信山社サイテック
- 517.5|S 「ポーラスコンクリート河川護岸工法の手引き」先端建設技術センター編、山海堂
- 517.5|T 「多自然型水辺空間の創造：生きとし生けるものにやさしい川づくり」富野章著、信山社サイテック
- 517.5|T 「多自然川づくりポイントブック III」多自然川づくり研究会著、日本河川協会、2011.
- 517.5|U 「社会的共通資本としての川」宇沢弘文・大熊孝編、東京大学出版会、2010.
- 517.7|I 「ダム下流生態系」池淵周一編著、京都大学学術出版会、2009.
- 517.7|K 「ダム撤去」科学・経済・環境のためのハインツセンター編、岩波書店
- 517.7|M 「地域生態系への回帰：急傾斜地に樹林を復元する新しい理念と戦略」丸本卓哉・河野憲治編著、文一総合出版
- 517.7|N 「魚道のはなし：魚のすみよい川づくり：魚道設計のためのガイドライン」中村俊六著、山海堂
- 517.7|O 「ダム湖生態系と流域環境保全」大森浩二、一柳英隆編著、京都大学学術出版会、2011.
- 517.8|M 「ミチゲーションと第3の国土空間づくり」水環境創造研究会編著、共立出版
- 517.8|S 「海辺ビオトープ入門」杉山恵一監修・自然環境復元研究会編、信山社サイテック、2000.
- 517.8|U 「海の自然再生ハンドブック：その計画・技術・実践」 「1 総論編」 「2 干潟編」 「3 藻場編」 「4 サンゴ礁編」（4分冊で1冊とみなす）海の自然再生ワーキンググループ著、ぎょうせい
- 518.1|S 「進化する自然・環境保護と空間計画」 Johann Köppel, Wolfgang Peters, Wolfgang Wende 著、技報堂出版、2008.
- 518.2|G 「下水処理と水環境：ミクロの世界から地球環境まで」亀田泰武ほか著、山海堂
- 518.2|S 「自然システムを利用した水質浄化：土壌・植生・池などの活用」石崎勝義、楠田哲也監訳、技報堂
- 518.2|S 「生態系にやさしい下水道をめざして」生態系との共生をはかる下水道のあり方検討会編、技報堂出版
- 518.8|D 「生命環境を守る緑」土木学会誌編集委員会編、丸善、2003.
- 518.8|D 「道路ビオトープ入門」道路緑化保全協会ビオトープ計画小委員会編、道路緑化保全協会、1998.
- 518.8|D 「地球温暖化と道路緑化」道路緑化保全協会編、道路緑化保全協会
- 518.8|F 「都市に水辺をつくる：環境資源としての水辺計画」藤原宣夫編著、技術書院
- 518.8|F 「屋上緑化 完全ガイド」船瀬俊介著、築地書館
- 518.8|H 「都市緑地の創造」平田富士男著、朝倉書店
- 518.8|I 「緑地環境科学」井手久登編、朝倉書店
- 518.8|I 「緑地生態学：ランドスケープ・エコロジー」井手久登・亀山章編、朝倉書店
- 518.8|K 「都市空間を多彩に創造する屋上緑化&壁面緑化」講談社編、講談社

- 518.8||K 「渋谷の屋上菜園都市化計画」小嶋和好著、築地書館
- 518.8||K 「オランダの持続可能な国土・都市づくり：空間計画の歴史と現在」角橋徹也著、学芸出版社、2009.
- 518.8||M 「環境緑化のすすめ」丸田頼一著、丸善
- 518.8||M 「都市緑化計画論」丸田頼一著、丸善
- 518.8||N 「建築と都市の緑化計画」日本建築学会編、彰国社
- 518.8||N 「実例に学ぶ屋上緑化：設計～施行～メンテナンスの勘所」日経アーキテクチュア編、日経BPムック
- 518.8||N 「湿地転生の記：風景学の挑戦」中村良夫著、岩波書店、2007.
- 518.8||O 「エコロジカル・ランドスケープというデザイン手法」小川総一郎著、理工図書、2009.
- 518.8||R 「まちと水辺に豊かな自然を：多自然型建設工法の理念と実際」リバーフロント整備センター編集、山海堂
- 518.8||R 「まちと水辺に豊かな自然をII：多自然型川づくりを考える」リバーフロント整備センター編著、山海堂
- 518.8||R 「まちと水辺に豊かな自然をIII」リバーフロント整備センター編著、山海堂
- 518.8||R 「川・人・街：川を活かしたまちづくり」リバーフロント整備センター編、山海堂
- 518.8||R 「河川を活かしたまちづくり事例集」リバーフロント整備センター編、技報堂出版
- 518.8||R 「緑化技術の新時代」エヌ・ティー・エス編集企画部編、エヌ・ティー・エス
- 518.8||S 「ルーフトップ緑苑革命」清水建設(株)技術研究所編集委員会編、イプシロン出版企画
- 518.8||T 「都市のエコロジカルネットワーク」都市緑化技術開発機構編集、ぎょうせい
- 518.8||T 「知っておきたい屋上緑化のQ&A」都市緑化技術開発機構特殊緑化共同研究会編、鹿島出版会
- 518.8||W 「水辺が都市を変える：ため池公園が都市空間に潤いを与える」和田安彦・三浦浩之著、技報堂出版
- 518.8||Y 「森が都市を変える：野生のランドスケープデザイン」吉村元男著、学芸出版社
- 518.8||Z 「ランドスケープコンストラクション」造園研究グループ編、技報堂出版
- 519||I 「地球・環境・人間」石弘之著、岩波書店、2006.
- 519||I 「地球・環境・人間II」石弘之著、岩波書店、2008.
- 519||K 「風景のなかの環境哲学」桑子敏雄著、東京大学出版会
- 519||K 「生態工学」亀山章編、朝倉書店、2002.
- 519||K 「環境微生物学：地球環境を守る微生物の役割と応用」久保幹ほか著、化学同人、2012.
- 519||M 「ヒートアイランドの対策と技術」森山正和編、学芸出版社
- 519||O 「自然との共生をめざして：自治体・地域の環境戦略」岡島成行編著、ぎょうせい
- 519||O 「応用生態工学序説：生態学と土木工学の融合を目指して」広瀬利雄監修、信山社、1997.
- 519||O 「微生物生態工学：環境問題解決の原理と実例」大森俊雄ほか著、昭晃堂、2003.
- 519||O 「環境保全・創出のための生態工学」岡田光正ほか編著、丸善、1999.
- 519||S 「環境再生医：環境の世紀の新しい人材育成をめざして」自然環境復元協会編、環境新聞社
- 519||S 「環境修復のための生態工学」須藤隆一編、講談社、2000.
- 519||T 「環境創造の思想」武内和彦著、東京大学出版会
- 519||Y 「近自然学：自然と我々の豊かさとの共存・持続のために」山脇正俊著、山海堂
- 519.1||I 「美しくいをつくる新知識：持続可能なまちづくりハンドブック」池谷奉文著、ぎょうせい、2007.
- 519.1||I 「環境アセスメントと昆虫」石谷正宇編集、北隆館、2012.
- 519.1||K 「わかりやすい戦略的環境アセスメント」環境アセスメント研究会編、中央法規出版、2000.
- 519.1||K 「実践ガイド環境アセスメント」環境アセスメント研究会編集、ぎょうせい、2007.
- 519.1||K 「環境アセスメント学の基礎」環境アセスメント学会編、恒星社厚生閣、2013.
- 519.1||M 「ミティゲーション：自然環境の保全・復元技術」森本幸裕・亀山章編、ソフトサイエンス社
- 519.1||M 「環境影響評価のすべて」プラサッド・モダック、アシット・K.ビスワス著、清水弘文堂書房、2001.
- 519.1||N 「環境アセスメントはヘップ(HEP)でいきる：その考え方と具体例」日本生態系協会監修、ぎょうせい、2004.
- 519.1||N 「エコロジストの時間」日本環境アセスメント協会編、東海大学出版会、2008.
- 519.1||S 「新版 環境アセスメント」島津康男著、日本放送出版協会、1987.
- 519.1||S 「環境アセスメント技術ガイド：生態系」生物の多様性分野の環境影響評価技術検討会編、自然環境研究センター、2002.
- 519.1||T 「緑地環境のモニタリングと評価」恒川篤史著、朝倉書店、2005.
- 519.1||T 「HEP 入門：「ハビタット評価手続き」マニュアル」田中章著、朝倉書店、2006.
- 519.1||T 「HEP 入門：「ハビタット評価手続き」マニュアル：新装版」田中章著、朝倉書店、2011.
- 519.4||E 「エコテクノロジーによる河川・湖沼の水質浄化」島谷幸宏・細見正明・中村圭吾編、ソフトサイエンス社
- 519.4||K 「自然の浄化機構の強化と制御」楠田哲也編著、技報堂出版
- 519.4||N 「水環境と生態系の復元：河川・湖沼・湿地の保全技術と戦略」National Research Council 編、技報堂出版
- 519.4||O 「市民環境科学への招待：水環境を守るために」小倉紀雄著、裳華房、2003.
- 519.4||S 「アオコが消えた諏訪湖」信州大学山岳科学総合研究所・沖野外輝夫・花里孝幸編、信濃毎日新聞社、2005.
- 519.8||A 「ビオトープ環境の創造」秋山恵二朗著、信山社サイテック、2000.
- 519.8||A 「里山再興と環境NPO：トンボ公園づくりの現場から」新井裕著、信山社サイテック

- 519.8||B 「道と小川のビオトープづくり：生きものの新たな生息域」 バイエレン州内務省建設局編，集文社，1993.
- 519.8||B 「ビオトープの基礎知識」 ヨーゼフ・ブラーブ著 青木進ほか訳，日本生態系協会，1997.
- 519.8||B 「エコロジカル・ネットワーク：環境軸は国境を越えて」 ヨーロッパ環境政策研究所編，日本生態系協会，2002.
- 519.8||D 「生態系サービスという挑戦」 G. C. デイリー・K. エリソン著，名古屋大学出版会，2010.
- 519.8||F 「未来につなぐビオトープ施工技術」 藤原宣夫・木呂子豊彦監修，学報社，2012.
- 519.8||H 「ルポ・日本の生物多様性：保全と再生に挑む人びと」 平田剛士著，地人書館
- 519.8||I 「タナゴももどった きすみ野ビオトープものがたり」 市川憲平文・市川涼子絵，農山漁村文化協会，2002.
- 519.8||I 「ビオトープ考：つくる自然・ふやす生態」 杉山恵一監修，INAX 出版，1995.
- 519.8||J 「生態系読本：暮らしと緑の環境学」 地盤工学会生態系読本編集委員会編，地盤工学会
- 519.8||K 「生物多様性緑化ハンドブック」 亀山章監修，地人書館
- 519.8||K 「ビオトープ：環境復元と自然再生を成功させる 101 ガイド」 近自然研究会編，誠文堂新光社，2004.
- 519.8||K 「ビオトープ型社会のかたち」 小杉山晃一著，信山社サイテック，2000.
- 519.8||K 「流域環境の保全」 木平勇吉編，朝倉書店
- 519.8||K 「干潟ネットワークの再生に向けて」 国土交通省港湾局・環境省自然環境局編集，国立印刷局
- 519.8||K 「ビオトープを考えるヒント」 木呂子豊彦著，新風舎，2003.
- 519.8||K 「わたしたちはこうして里山を再生した」 小泉山体験の森創造委員会編，信濃毎日新聞社，2006.
- 519.8||K 「第3次生物多様性国家戦略」 環境省編，ビオシティ，2008.
- 519.8||K 「ビオトープブック：生物多様性保全の科学と政策」 小杉山晃一著，学報社，2009.
- 519.8||M 「緑の環境設計」 明誠企画編，エヌジーティー
- 519.8||M 「みんなでつくるビオトープ入門」 杉山恵一監修，合同出版，1996.
- 519.8||N 「環境を守る最新知識：ビオトープネットワーク」 日本生態系協会編著，信山社サイテック，1998.
- 519.8||N 「環境を守る最新知識：ビオトープネットワーク：第2版」 日本生態系協会編著，信山社，2006.
- 519.8||N 「都市につくる自然：生態園の自然復元と管理運営」 中村俊彦・長谷川雅美編集，信山社
- 519.8||N 「ビオトープネットワーク：都市・農村・自然の新秩序」 日本生態系協会編著，ぎょうせい，1994.
- 519.8||N 「ビオトープネットワーク II：環境の世紀を担う農業への挑戦」 日本生態系協会編著，ぎょうせい，1995.
- 519.8||N 「江戸時代にみる日本型環境保全の源流」 農山漁村文化協会編，農山漁村文化協会
- 519.8||O 「生態学的混播・混植法の理論 実践 評価」 岡村俊邦著，石狩川振興財団
- 519.8||S 「水辺の環境学：生きものとの共存」 桜井善雄著，新日本出版社
- 519.8||S 「続・水辺の環境学：再生への道をさぐる」 桜井善雄著，新日本出版社
- 519.8||S 「水辺の環境学 3：生きもの水辺」 桜井善雄著，新日本出版社
- 519.8||S 「水辺の環境学 4：新しい段階へ」 桜井善雄著，新日本出版社
- 519.8||S 「ビオトープ：復元と創造」 自然環境復元研究会編，自然復元特集 2，信山社サイテック，1993.
- 519.8||S 「水辺ビオトープ：その基礎と事例」 自然環境復元研究会編，自然復元特集 3，信山社サイテック，1994.
- 519.8||S 「写真で見る自然環境再生」 自然環境復元協会編，オーム社，2011.
- 519.8||S 「自然環境復元の技術」 杉山恵一・進士五十八編，朝倉書店，1992.
- 519.8||S 「ビオトープの形態学：環境の物理的構造」 杉山恵一著，朝倉書店，1995.
- 519.8||S 「ビオトープの構造：ハビタット・エコロジー入門」 杉山恵一・福留脩文編，朝倉書店，1999.
- 519.8||S 「改訂 自然環境復元入門」 杉山恵一著，信山社サイテック，2000.
- 519.8||S 「自然環境復元の展望」 杉山恵一著，信山社サイテック，2002.
- 519.8||S 「ビオトープの管理・活用：続 自然環境復元の技術」 杉山恵一・重松敏則編，朝倉書店，2002.
- 519.8||S 「自然の浄化機構」 宗宮功編著，技報堂出版
- 519.8||S 「自然再生：生態工学的アプローチ」 亀山章ほか編，ソフトサイエンス社，2005.
- 519.8||S 「森、里、川、海をつなぐ自然再生」 自然再生を推進する市民団体連絡会編，中央法規出版
- 519.8||S 「生物多様性基本法」 谷津義男ほか共著，ぎょうせい
- 519.8||S 「よみがえれ自然：自然再生事業ガイドライン」 自然環境共生技術協会編著，環境コミュニケーションズ，2007.
- 519.8||S 「海辺再生：東京湾三番瀬」 三番瀬環境市民センター著，築地書館，2008.
- 519.8||S 「ビオトープ みんなでつくる」 「① 知識編」 「② 実践編」 (2分冊で1冊とみなす)，塩瀬治著，星の環会，1999.
- 519.8||T 「まちに自然をつくる」 トラスト・フォー・アーバン・エコロジー編著，中央法規出版
- 519.8||T 「都市に自然をとりもどす：市民参加ですすめる環境再生のまちづくり」 宗田好史ほか編著，学芸出版社
- 519.8||T 「環境時代の構想」 武内和彦著，東京大学出版会
- 519.8||W 「自然再生事業：生物多様性の回復をめざして」 鷺谷いづみ・草刈秀紀編，築地書館
- 519.8||W 「自然再生のための生物多様性モニタリング」 鷺谷いづみ・鬼頭秀一編，東京大学出版会，2007.
- 519.8||Y 「自然生態修復工学入門：荒廃した里山を蘇らせる」 養父志乃夫著，農山漁村文化協会
- 519.8||Y 「田んぼビオトープ入門：豊かな生きものがつくる快適農村環境」 養父志乃夫著，農山漁村文化協会，2005.
- 519.8||Y 「ビオトープ再生技術入門：ビオトープ管理士へのいざない」 養父志乃夫著，農山漁村文化協会，2006.
- 519.8||Y 「ビオトープづくり実践帳」 養父志乃夫著，誠文堂新光社，2010.

- 519.8||Y「流域の環境保護：森・川・海と人びと」依光良三編著、日本経済評論社
- 519.8||Y「都市にとって自然とはなにか」余暇開発センター編、農山漁村文化協会
- 527||C「近くの山の木で家をつくる運動宣言」緑の列島ネットワーク、農山漁村文化協会
- 527||H「西岡常一と語る 木の家は三百年」原田紀子著；秋山実他写真、農山漁村文化協会
- 527||K「木の家に住むことを勉強する本」「木の家」プロジェクト編・著、泰文館・農山漁村文化協会
- 610.4||K「食と緑の環境科学：農林業の多面的機能とその活用」唐澤豊編著、信濃毎日新聞社
- 611||N「環境の時代を迎える世界の農業：生き物を大切にする農業の法律」日本生態系協会編著、日本生態系協会、2004.
- 611||S「農村自然環境の保全・復元」杉山恵一・中川昭一郎編集、朝倉書店
- 613||M「水田生態工学入門：農村の生きものを大切にする」水谷正一編著、農山漁村文化協会、2007.
- 613.6||W「地域と環境が蘇る水田再生」鷺谷いづみ編著、家の光協会、2006.
- 615||A「自然から学ぶ生き方暮らし方」天野紀宜著、農山漁村文化協会
- 616||H||D「メダカはどのように危機を乗り越えるか：田んぼに魚を登らせる」端憲二著、農山漁村文化協会、2005.
- 616||N「農家が教える生きもの田んぼづくり」農文協編、農山漁村文化協会、2010.
- 627||H「小さなビオトープを楽しむ本」平野威編、樫出版社、2008.
- 629||F「野鳥を呼ぶ庭づくり」藤本和典著、新潮社、2005.
- 629||S「自然再生とひとにやさしいエンジニアリング」金井格監修、技報堂出版
- 629||S「野生を呼び戻すビオガーデン入門」杉山恵一、牧恒雄編、農山漁村文化協会
- 629.7||H「虫といっしょに庭づくり」ひきちガーデンサービス著、築地書館、2008.
- 629.7||I「小さなビオトープガーデン：庭やベランダで水辺の花と生き物を楽しむ！」泉健司著、主婦の友社、2005.
- 629.7||M「きれいな水でホテルをとばそう：自分で作るビオトープ」村上光正・木下一成著、パワー社、2006.
- 629.7||Y「ホームビオトープ入門：生きものをわが家に招く」養父志乃夫著、農山漁村文化協会、2003.
- 651||S「山と里を活かす：自然と人の共存戦略」信州大学山岳科学総合研究所編、信濃毎日新聞社、2003.
- 652||A「"林業再生"最後の挑戦：「新生産システム」で未来を拓く」天野礼子著、農山漁村文化協会
- 652||M「木材革命：ほんとうの「木の文化の国」が始まる」村尾行一著、農山漁村文化協会
- 653||O「人工林荒廃と水・土砂流出の実態」恩田裕一編、岩波書店、2008.
- 653||O「図解 これならできる山づくり：人工林再生の新しいやり方」鋸谷茂、大内正伸著、農山漁村文化協会
- 653||S「市民による里山の保全・管理」重松敏則著、信山社サイテック、1991.
- 653||S「わたしたちの森林づくり」森林クラブ編集・監修、信山社サイテック
- 656||K「緑のダム：森林・河川・水循環・防災」蔵治光一郎・保屋野初子編、築地書館
- 656||K「森里海（もりさとうみ）連環学」京都大学フィールド科学教育研究センター編、京都大学学術出版会
- 656||T「森里海連環学への道」田中克著、旬報社
- 657||U「ウッドマイルズ：地元の木を使うこれだけの理由」ウッドマイルズ研究会著、農山漁村文化協会
- 664||F「アユを育てる川仕事：漁協、市民、行政がつくりあげる、アユとの共存」古川彰・高橋勇夫編、築地書館
- 666||D「多自然型魚道マニュアル」ドイツ水資源・農業土木協会著、山海堂
- 666||S「魚道事例集：魚が上りやすい川づくり」魚のすみやすい川づくり研究会編著、リバーフロント整備センター
- 666||S「魚道のそ上降下環境改善上のワンポイントアドバイス」魚のすみやすい川づくり研究会編著、リバーフロント整備センター
- 666||S「磯焼けの海を救う：海の医者のエコロジー」境一郎著、農山漁村文化協会
- 666||W「魚道見聞録：言いたい放題」和田吉弘著、ダム水源地環境整備センター編、山海堂
- 666||Y||C「技術者のための魚道ガイドライン」安田陽一著；北海道魚道研究会編、コロナ社、2011.